

平成23年2月

# 石田千尋 学位論文審査要旨

主 査 汐 田 剛 史  
副主査 林 一 彦  
同 村 脇 義 和

## 主論文

Functional gene polymorphisms of Interleukin-10 are associated with liver disease progression in Japanese patients with hepatitis C virus infection

(日本人におけるC型慢性肝疾患の進展とインターロイキン-10の機能的遺伝子多型との関連)

(著者：石田千尋、池淵雄一郎、岡本欣也、村脇義和)

平成23年 Internal Medicine 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、C型慢性肝疾患 184例を対象として抗炎症性サイトカインInterleukin -10 (IL-10) の機能的遺伝子多型とC型慢性肝疾患の進展との関連について検討したものである。その結果、慢性肝炎群と肝硬変群でIL-10遺伝子多型の頻度に明らかな差を認めなかったが、肝硬変患者のうち転写活性の低い-1087 Aホモ型、-824 Tホモ型および-1087/-824 ハプロタイプ AT、AC型で、肝実質機能の低下が認められた。本論文の内容は、C型慢性肝疾患での肝病変の進展に、IL-10の機能的遺伝子多型が関与しており、転写活性の低いIL-10の遺伝子多型およびハプロタイプでは肝病変進展の危険が高いことを明らかにしたものであり、C型肝炎の患者管理で有用な所見であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。